

反射マルチでニンニクのウイルス被害を軽減

有翅アブラムシ類の飛来抑制効果が知られている反射マルチを利用したところ、ニンニクにおけるアブラムシ伝染性ウイルスの感染を低減することができました。

研究成果の概要

1 背景・目的

ニンニクは、ウイルス病にかかると被害が大きくなります。その対策としてこれまでウイルスフリー株の生産・増殖・配布を進めてきました。しかし、被害の多くを占めるリーキ黄色条斑ウイルス（LYSV）はアブラムシ伝染性のため、再感染することにより被害が減りにくい現状があります。そこで、有翅アブラムシ類の飛来抑制効果が知られている反射マルチを利用し、ニンニクにおけるLYSV感染が低減するかを調査しました。

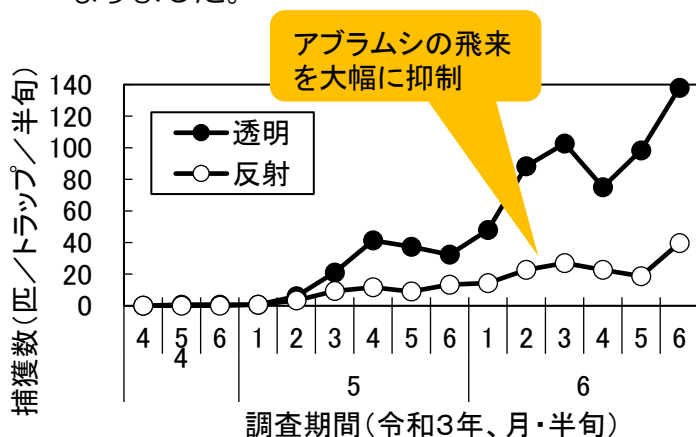
2 内容

反射マルチを使用することで、透明マルチ使用に比べ、

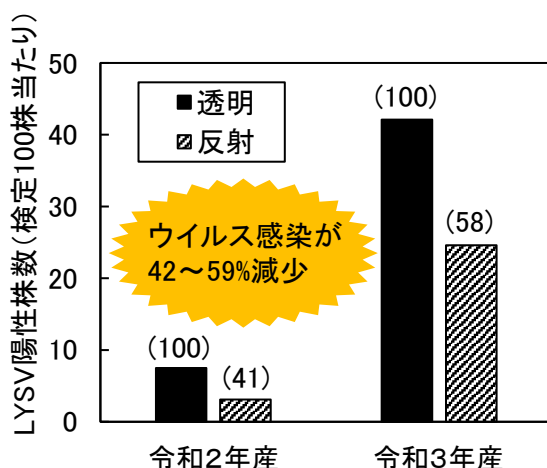
- ・ 有翅アブラムシの飛来が大幅に抑制されました。
- ・ LYSV感染が42～59%程度減少しました。
- ・ 生産球は小ぶりになりますが、球の割れが少なくなりました。



反射マルチ 透明マルチ
(黄色の容器は、アブラムシ捕獲用の黄色水盤トラップ)



黄色水盤トラップによる有翅アブラムシ類の捕獲消長



反射マルチによるLYSV感染低減効果

括弧内は、透明マルチ区を100とした場合の比数を示す。試験区の隣接畝にウイルス感染源を植え付けた条件で栽培し、収穫されたニンニクについてウイルス検定を行った。

3 活用等

ウイルス感染を避けなければいけない種苗用圃場での普及を主に進めていく予定です。

関連情報

- ・ 詳細については、令和4年度指導参考資料「にんにく種苗生産に反射マルチを利用した場合の有翅アブラムシ類の飛来抑制効果及びリーキ黄色条斑ウイルス（LYSV）感染低減効果」を参照してください。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/hukyuugijutu_yasaimokuji.html

